

明日は我が身とならないための

実例 歯科医院法務 まなび塾

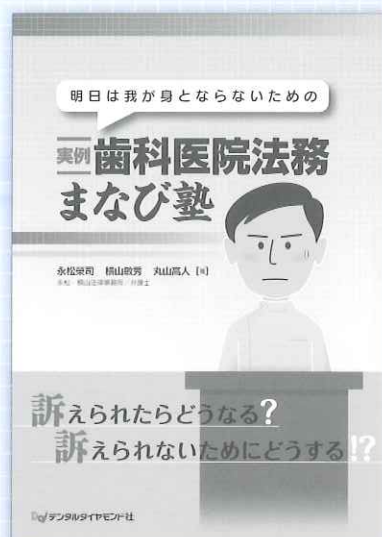
〔著〕永松榮司・横山敏秀・丸山高人(永松・横山法律事務所/弁護士)

NEW

訴えられたらどうなる?
訴えられないためにどうする!?

医療過誤訴訟が増加傾向にある昨今、開業歯科医も他人事ではいられません。「医療過誤により患者から訴えられた」「解雇を巡ってスタッフから訴えられた」など、“医療者”として、“経営者”として、訴訟のリスクは常にあります。また、“私人”としての訴訟が「歯科医師免許の取消・歯科医業停止の行政処分」に繋がることも……。本書では、実際に起こった裁判事例を紐解きながら、どのようなケースで歯科医師が訴えられているのか、どうしたら訴訟リスクを減らすことができるのか、歯科治療における“あるべき医療水準”とはどの程度なのかを、丁寧に解説しています。「備えあれば憂いなし」、ぜひご一読を!

詳しい情報はこちら→



【B5判・136頁 本体4,000円+税】

CONTENTS

第1章 歯科医師としての法務事例

- ①診療録の不記載・訂正と歯科医師の説明義務違反
- ②8年余に及ぶ治療のなかでのX線検査の失念と医療過誤
- ③有病高齢者のインプラント処置後の感染防止義務
- ④インプラント治療の段階に応じた検査・実施・予後管理等の注意義務
- ⑤医療情報に翻弄される患者と誘発される医療過誤訴訟 他

第2章 経営者としての法務事例

- ①スタッフに対するパワハラと不当解雇
- ②勤務医からの解雇無効の訴え～雇用リスクの顕在化～
- ③診療報酬の不正請求から考える歯科医師に潜在するリスク
- ④電子カルテへの不正入力と保険医のリスク管理
- ⑤歯科医院に潜む個人情報漏洩のリスク 他

第3章 私人としての法務事例

- ①父の突然死が歯科医院の経営を襲う
- ②不倫・別居・仮面夫婦の10年余の法廷闘争の結末
- ③歯科医師における連帯保証の効能と副作用
- ④交通事故が歯科医師を直撃
- ⑤強制わいせつ行為による刑罰・行政処分と不服申立の帰趨

